

開国のまち・下田市で市民と交流



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、5月17日（金）から19日（日）の3日間、下田開港のシンボルである「第80回黒船祭」の華やかなイベントに参加し、日米親善を図るとともに自衛隊をPRした。

自衛隊は例年、下田港において海自艦艇の一般公開や陸自車両を展示しており、80回目を迎えた今回は、それらに加え空自戦闘機等が飛行展示したほか、空自救難ヘリが水しぶきを巻き上げながらホバリングする救難訓練を実施して、来場者の注目を集めた。

また、2日目には陸・海・空自衛隊主要幹部も記念式典やパレードに参加。静岡地本は、一目で自衛隊とわかる緑色の小型トラックに宮川本部長と営業部長の「しずぼん」が乗り込み、沿道を埋め尽くす人々からの「自衛隊かっこいい」「しずぼん頑張ってる」という声援に笑顔で手を振り、自衛隊をPRした。

一方、掃海艦「ひらど」が入港した下田港外ヶ岡岸壁には、自衛隊を身近に感じてもらおうと静岡地本広報ブースを開設。「ひらど」や展示されている陸上自衛隊の「96式装輪装甲車」などをバックに、制服や迷彩服を着て写真を撮影できるコーナーを設けたほか、南関東防衛局とともに自衛官と米軍の仕事のパネルや映像で紹介した。途中、市内で行われた「下田条約調印」再現劇を終えたペリー提督や町奉行姿の参加者も訪れ、ブースは日米交流の場となり一段と賑やかとなった。

静岡地本は、今後も地域のイベントを市民と一体となって盛り上げ、自衛隊の活動への理解促進を図るとともに、若者に自衛官という職業の魅力を伝えていく。

精強な自衛官の秘密を大公開



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、5月25日（土）、イオン清水店（静岡市）で行われた「イオン清水店開店20周年イベント」で広報活動を実施した。

会場では、静岡地本が子供たちに人気の「迷彩服試着コーナー」と、自衛官が訓練中に必要な装備品等をすべて詰め込んだ20キロを越える重量のリュックサック（背のう）を背負って重さを体験する「背のうチャレンジ」を開設した。

「背のうチャレンジ」には、来場した多くの若男女が挑戦し、「持ち上げられただけ一歩も動けない」という若い女性や「仕事で大量の重量物を運んでいるので背負えるけど、何十キロも歩けない。自衛官はさすがだね」という年配の女性などから驚嘆の声が聞こえた。

一方、静岡地本以外にも、陸上自衛隊普通科教導連隊（御殿場市）も集結。野外炊具1号で調理した800食のどん汁を配布したほか、96式装輪装甲車等3両の車両を展示した。

会場には強い日差しが照りつけ、最高気温が真夏日にせまっていたにもかかわらず、どん汁の配布前には多くの来場者が列をなし、どん汁を親子で試食した男性は「息子がかわりするほど美味しかった。具だくさんのどん汁は栄養満点で、自衛隊の力強さはここから来ているのかと思った」と暑さに負けず、嬉しそうにほおぼっていた。

静岡地本は、今後も地域の賑わいの場で地元住民に自衛隊の任務や活動に対する理解促進や親近感の向上を目的とした広報活動に邁進していく。